



乳がんを知ろう

ピンクリボン通信 vol.11

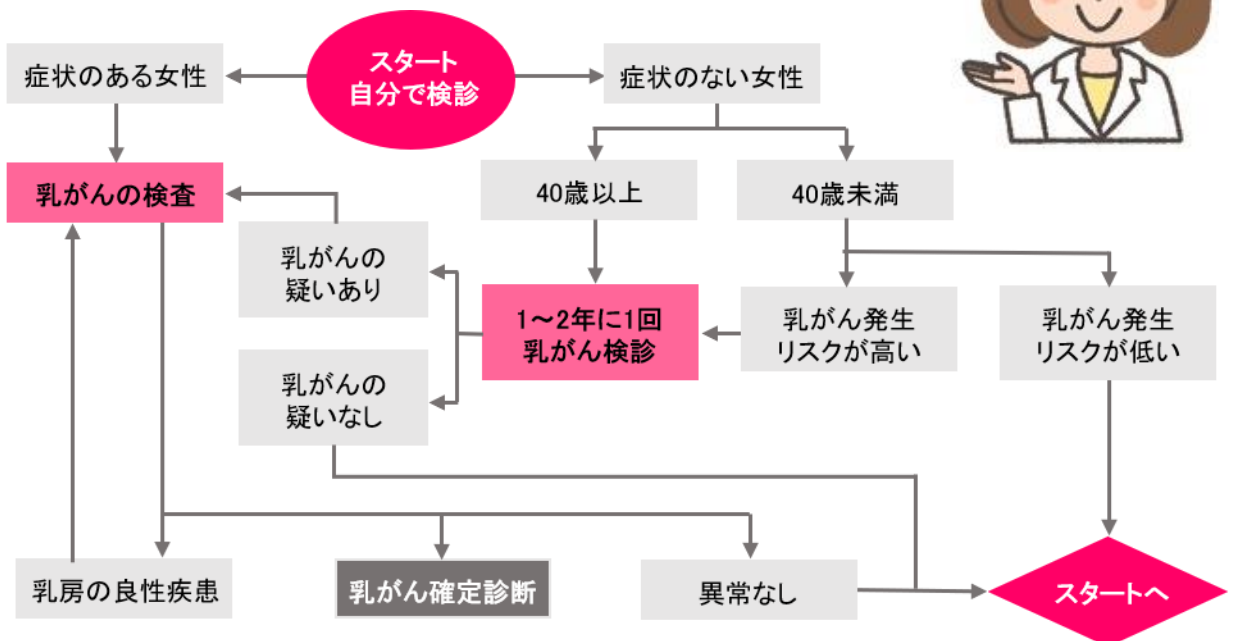
2020.10



自己検診はその次の行動が大切！

乳がんの早期発見のポイントのひとつは、自分で定期的に乳房を調べる「**自己検診**」を行い、自己検診で異常を発見したら早めに医療機関を受診して乳がんの検査を受けることです。

また、いざ受診をしようというときに、間違いやすいのが受診科です。まず、乳がんを疑ったら婦人科や内科ではなく、外科を受診するか、「**乳腺外科**」や「**乳房外来**」などの専門医や認定医のいる医療機関を受診します。婦人科や放射線科内に、乳腺外来を設けている医療機関もあります。



マンモグラフィと超音波検査

乳がんの早期発見には、マンモグラフィや超音波などの画像検査が有効です。以前の視触診単独の健診に比べ、マンモグラフィを併用することにより乳がんの発見率は**約3倍**に上昇する、早期乳がんで見つかる率が高くなるという報告があります。

しかし、マンモグラフィでは40歳代やそれより若い女性には限界があることが指摘されています。実際に、マンモグラフィによる40歳代女性の場合、**約30%**の乳がんが見逃されると報告されています。

そこで、マンモグラフィに加えて超音波検査も用いられており、それぞれの画像検査に得意、不得意があるため、それらに合わせて検査を選択することが望まれます。

	マンモグラフィ	超音波
得意	早期がん、非浸潤がん、石灰化、脂肪が多い乳腺組織内の腫瘍（しこり） ⇒50歳以上の乳腺	豊富な乳腺の中にある腫瘍（マンモグラフィより早期に検出できる） ⇒40歳代やそれ以下の乳腺
不得意	豊富な乳腺の中にある腫瘍 ⇒40歳代やそれ以下の乳腺	石灰化や脂肪の中の小さい腫瘍など ⇒50歳以上の乳腺



50歳以上の女性であればマンモグラフィが有用、40歳代やそれ以下の若年者ではマンモグラフィに加えて超音波検査の導入も検討されています。

